

明石のまちづくり

第3号
2018年4月

一発行一

明石市連合まちづくり協議会
編集：広報部
連絡先：明石市コミュニティ推進課
TEL (078)918-5004

AKASHI NO MACHIDUKURI

明石市連合まちづくり協議会のスローガン

まちづくり ゆめづくり

校区まちづくり組織

松が丘校区の取り組み

明石市内の各小学校校区では、それぞれの地域の実情に合わせてまちづくりを進めています。広報紙「明石のまちづくり」では、連合まちづくり協議会の広報部が取材した先進的な活動を紹介しています。

約50年前に丘陵地を切り開いた明舞団地の中にある松が丘校区。校区の活動の中心である松が丘校区まちづくり協議会（以下、まち協）ではどのような取り組みを進めてきたのでしょうか。

まちづくり活動のきっかけ

「神社・仏閣もなければ、青年団、消防団、婦人会もない。どうすればみんなの気持ちを同じ方向に向かせられるか。」まち協の小島会長は、振り返りながらお話を始められました。まちづくりのきっかけは、地域に危険な場所はないか？と始めた安全点検でした。大人も子どももたくさんの方がまちに出て、「あそこの手すりが必要だ」「あの坂が危ない」など合計108の危険箇所を発見し、「コミュニケーションマップ」にまとめました。最終的には、延べ1100人が参加し、みんなでまちづくりをすすめる風土ができました。

住民を巻き込んだ

まちのビジョンづくり

平成25年度からは明石市のモデル事業の指定を受け、まちの



あいさつ運動

「住民同士で話し合いを重ねる中で、ある時、全ての班から『住民の交流』という共通の言葉が出てきました。そこから松が丘校区のビジョンは『住民みんなが交流し、助け合える松が丘』に決まりました。いまでは、『住民の交流』が校区全体のキーワードとして根付いています。

顔を合わせて

交流のきっかけを

まち協は、4つの部会を中心に事業を実施しています。高齢者がごどもに昔遊びを教える「松っ子教室」、校区のごどもや父兄が一同に集まる「松っ子まつり」、年末の餅つき大会、まち歩き、グランドゴルフ大会、ふれあいガーデンの運営などです。参加のハードルを低くして、まち協の担い手になってもらえよう工夫をしていると、副会長の木下さん。どの活動も住民同士が顔見知りになる、きっかけとして開催されています。



未来会議

さらに、高齢化の対策を検討するため、民生委員と自治会長の懇談会を開催されたそうです。交流し、顔見知りになり、課題を一緒に考えるきっかけづくりをしています。「待ってたって人は集まらないからね」と、安心安全部会の須賀さん。自らチラシをつくるなど人を巻き込む方法を模索されました。松が丘のまちを歩くと「こんにちはー」とあいさつを交わす人に出会います。あいさつ運動も長年続く活動。「住民同士の心が通い、交流し合いながら助け合っこそまちづくりです」

と、おっしゃられたのが印象的でした。

地域全体で人を育てる

「松っ子教室に来ていた子どもが、高校生になってまち協の活動を手伝いたいと言ってきた」と副会長の小西さん。その高校生はいまも、まち協の貴重なメンバーです。まち協では毎月1回役員会と理事会を開催しています。理事会には各種団体から59人が参加しており、校区の情報が集まる場として重宝されています。まち協の役員・部会長は自治会役員とは異なるメンバーです。そこには、まち協の活動を通して次世代を巻き込む狙いがありました。また、自治会長OBは協力員としてまち協の活動に関わってもらおうという工夫もしています。ごどもから、高齢者までたくさんの方が交流しながら松が丘校区の活動・歴史をつくっています。



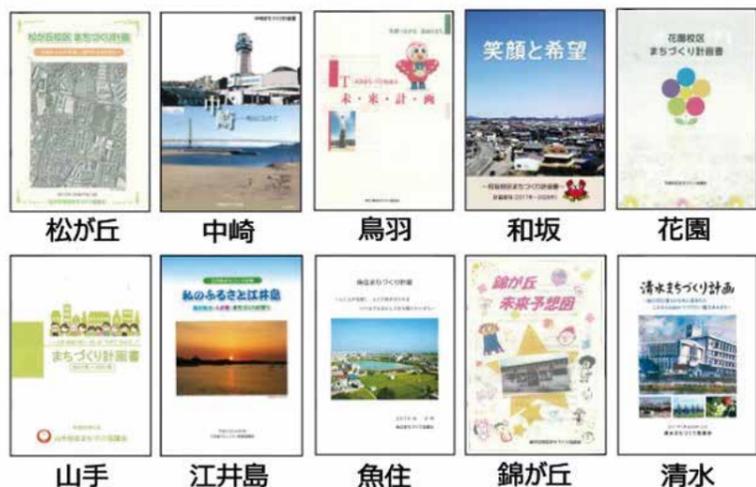
松っ子教室（紙コップロケット）

まちができて50年。多世代になった松が丘校区はコミュニケーション・スクールのモデル校となった松が丘小学校の運営にも地域として関わるなど、まちを再生する新たな取組もはじまっており、今後に期待です。

まちづくり計画書とは

明石市には、28の小学校があり、それぞれの校区で、「校区まちづくり組織」（地域ごと）、まちづくり協議会やコミュニティ推進協議会など名称は様々）が活動しています。

校区まちづくり組織は、地域の目指すべき将来像や方向性・具体的な取り組みを定めたまちづくり計画書を策定しつつあります。策定の過程では、住民アンケートを取ったり、意見交換会を開催したりしながら、住民の意見を反映させられるよう工夫しています。ぜひ、まちづくり計画書を手にとってみてください。



各校区のまちづくり計画書



防災懇談会

明石市連合まちづくり協議会は、市内の校区まちづくり組織が実施する防災に関する様々な取り組みの情報交換を目的に、平成30年2月3日に明石市防災センターで防災懇談会を開催しました。懇談会では、校区まちづくり組織の役員や部会員だけでなく、明石市総合安全対策室をはじめとする各種関係団体も参加。合計82名が集まり、7校区（松が丘、人丸、王子、和坂、魚住、錦が丘、二見）による事例紹介の後、沿岸部と内陸部に分かれて意見交換しました。



沿岸部の意見交換では、地震発生時の津波対策に関する話題が中心となりました。防潮堤については、明石市と地域の連絡体制について話し合われました。また、海拔表示については各地域での設置状況や防災マップへの反映などについて情報交換しました。防災器具の維持・管理についても、各地域で補充していかないといけないなどの意見が挙がっています。

一方、内陸部の意見交換では、津波災害が起こる可能性が低いことから、危機感の低い住民の意識啓発をどうすればよいかといったことが話題に挙がりました。防災学習会として非常食の試食会を開催している事例や無事を示すタオルを配布している事例など各校区の取り組みが紹介され、住民が楽しんで参加でき

るよう工夫し、繰り返し意識啓発をしていくことが大切ということを確認しました。

また、内陸部では災害時要支援者の対応についても話題となりました。要介助者の支援については、自治会と民生児童委員とがしっかりと連携していく必要があること、ゆうあい訪問に避難行動要支援者名簿などを活用していくことなどが話し合われました。

次年度以降も引き続き、防災懇談会を開催していく予定です。

【出席関係団体】

明石工業高等専門学校・兵庫県立大学・兵庫県防災士会・あかし防災リーダーの会・明石市消防本部・明石市総合安全対策室・明石コミュニティ創造協会



懇談会の様子

視察研修

今年最強の寒波に見舞われた1月24日（水）、連合まちづくり協議会主催のもと高松市十河校区コミュニティ協議会（以下、コミ協）に視察研修にうかがいました。

研修では、サロンの開催、あいさつ運動の工夫方法、校区住民を集めてドミノ大会をするなど、コミ協の活動をたくさんご紹介頂きました。

意見交換では「このようにたくさんの人を巻き込んでいるのか？」という質問には「地域の女性を巻き込んでください」とコミ協会長。抹茶と和菓子を振る舞っていただくなど、四国ならではのおもてなしをしていただきました。今後の明石のまちづくりに役立てられる、大変貴重な機会となりました。

視察先：高松市十河校区コミュニティ協議会
参加者数：52名



集合写真



十河地域の情報誌

自治会部会より

愛媛県新居浜市連合自治会 視察受け入れ

1月19日に、同連合自治会の視察を受け入れ、「自治会役員のみならず不足を解消するための役員負担軽減策」や、「自治会活動の見直し」について活発に意見交換をしました。自治会部会のメンバーから、「役員以外で、応援隊」として行事などをサポートしてくれる人を増やす「校区と重複する行事は校区に任せて、自治会活動を見直す」など、実際の取り組み事例を伝えました。

今後も視察受け入れを通じて、他の市の情報収集を行い、良い取り組み事例を、みなさまに発信していきたいと思えます。



新居浜市連合自治会会長あいさつ



検討を進める 「マンション管理組合を自治会に」

自治会加入促進の一環として、マンション管理組合の取り扱いについて検討しています。

現在、管理組合と自治会は目的や構成が異なるため、別組織として位置づけられています。それぞれの組織で重複する役員の負担軽減と、地域コミュニティの必要性などから、一定の要件を満たす管理組合については自治会と同様に取り扱いしていくべきではという結論に至りました。平成30年度開始を目標にその要件や啓発方法について検討を進めていきます。

編集後記（広報部会より）

今回、取材させていただいた「松が丘校区まちづくり協議会」は、新しく開発された市街地ですが、そういった地域の特性を活かし、古いしがらみに左右されることなく、独自の文化を築いてきたということが、先進的な地域活動の取り組みに繋がったものと感じました。

また、高齢化という事態に直面しながらも、将来を見据えたまちの再生化に取り組んでおられるところも、各地域のお手本になるものと考えます。ここ半世紀の間に蓄積されたノウハウをもとに、今後のさらなる発展を期待したいものです。

自治会・町内会ガイドブック 加入促進マニュアルの改訂

自治会・町内会長を対象に毎年配布している「自治会・町内会ガイドブック」「自治会加入促進マニュアル」の、平成30年度版の発行に向けて改訂を進めています。参考となる活動事例を追加するなど、今よりさらに自治会活動に役立てていただける内容を目指します。



ガイドブック・マニュアル
(平成29年度版)

